

スワレ通信

Support Office for Female Researchers

One Coin
ランチ

ランチミーティング in 松本を開催しました!

10月17日(水)松本キャンパスにて、女性研究者のランチミーティングを開催しました。医学部・理学部・人文学部・経済学部・全学教育機構・法曹法務研究科、総勢36名の女性教員の参加がありました。松岡英子女性研究者支援室長のあいさつの後、5グループに分かれて、各部局から選出の女性研究者支援室員の先生方に進行していただきました。

所属部局に女性比率が高いと、ケアが必要だという機運が自然に高まり、措置が取りやすいようです。学内託児所の必要性は言うまでもなく、土日の学会に出席ができるよう、土日を含めた長時間体制が必要であるという意見がありました。また、女性に限らず男女の生活を圧迫する勤務体制に問題があるため、非研究面の業務の軽減、入試や教務など、負担の重い委員会業務からは必ず配慮など、研究科・部局運営に機動性を求めたい、という意見が出ました。



西村 直子 先生
(経済学部教授)

昼食をいつも一人あるいは少人数で食べている雰囲気とは異なり、大変賑やかな中で、あっという間に時間が過ぎました。その中では、産休や育休中の代替教員の考え方や対応が部局により異なっていることの報告がありました。しかし大学全体が少しずつ女性研究者を支援する方向に意識が進んでおり、男性教員の考え方にも影響を及ぼしてきているなどの報告もありました。なお個々の教員の背景は皆異なっており、抱えている問題は多様化しているため、個人個人の意見や課題をていねいに吸い上げ検討してもらいたいとの要望がありました。



坂口 けさみ 先生
(医学部教授)



他学部的女性教員の方々とお話し、意見交換をしたら、30分という時間はあっという間に過ぎてしまいました。いろいろな意見や事例がでたのですが、その中で、「男女共同参画問題にしてもEP問題にしても、マイノリティーの意見をどう吸い上げるかが重要である。」というご指摘には納得させられました。いろいろな情報交換をさせていただき、なにより私が感じたのは、それぞれの部局には、部局外の人間には思いもつかないような独特な悩みや問題があり、それを十把一絡げにすることはできず、一つ一つの事例に柔軟に対応できるような制度の在り方を考える必要性があるなということでした。



花崎 美紀 先生
(人文学部准教授)

私の所属する理学部物理学科では、女子学生が1割ほどで女性の研究者志望の比率は少なく、教授もほとんど男性。保健学科の先生方は理学部の人数を聞いて驚かされていました。保健学科は女性が多く、女性が孤立していることによる悩みなどはなさそうなのが非常にうらやましく感じましたが、偶然なのかこのグループは独身者が多く、将来のライフイベントを考えると仕事と研究の両立への理解を得られるか不安を感じているのは同じでした。今回はお互いの状況をすこし理解できたのが収穫でしょうか。「まだしゃべり足りない」などの声もあり、終了後もアドレス交換が続く楽しい会となりました。



中島 美帆 先生
(理学部准教授)

部局ごとに環境は異なるものの、女性にとって働きやすい職場とはどのようなものか、各参加者に具体的なイメージがあり、共感できる意見が多く示されました。また、病(後)児保育を考える際にヒントとなる民間の取り組みが紹介された他、本学の取り組みを学内にとどまらず地域にまで広げていく為の具体的方策も提案される等、男女共同参画を進める上で、常に問題意識を持っている女性達が集まり、話すことの意義を感じたミーティングでした。



兼元 美友 先生
(全学教育機構准教授)

9月10日(月) 第3回メンター研修会を開催しました!



名古屋大学
高等教育研究センター
准教授 中井 俊樹氏

9月10日(月)、松本キャンパスにおいて、名古屋大学高等教育研究センター准教授 中井俊樹氏を講師にお迎えし、「大学におけるメンタリングの実践」と題し研修会を行いました。

「大学におけるメンタリングの論点」「教員メンタープログラムの概要」「プログラムの実際と反響」「実践から学んだこと」の4つの構成によって進められました。

メンタリングが導入されてきた背景として、職の不安定化とキャリアの不透明化、研修支援を望む層の増加、女性教員に対する支援を挙げ、近年の大学教員職の変化に伴いキャリア的支援に加え、心理的・社会的支援を果たすメンタリングの導入が必要であることを語られました。また名古屋大学では、FD研修としてメンタリングを取り入れ、集合型研修のみならず、マンツーマンのメンタリングプログラムを実施するなど、組織的な新任教員養成の取組

みの紹介がありました。

研修の後半は、メンタリングプログラムを実施したメンター教員のアンケート結果や、相談の事例、メンターの困っていること、改善点など、具体的な実践内容の紹介があり、本学のメンタリング導入にあたり大変参考になりました。



パワーポイント資料



名古屋大学は
「メンター・アワード2012」
優秀賞を受賞しました!

大学院生の

研究者を目指す女性への会 発足!!

～立ち上げの報告～



▲左から
松岡 英子 支援室長、
農学部 尾崎 絵理さん、
農学部 江田 慧子さん

▲工学部 堀田 真理子さん
(理学部 斎藤 梨絵さんは所用のため途中退席)

9月3日(月)、女性研究者支援室(長野分室)に、「研究者を目指す女性への会」の有志の訪問があり、立ち上げの目的と活動内容について、以下の報告がありました。

「この会は、大学院生を中心に、同じ立場にある女性同士が語り合い、情報交換や各種イベントを行い、大学での研究活動を継続するための“モチベーション”を高める会として発足しました。

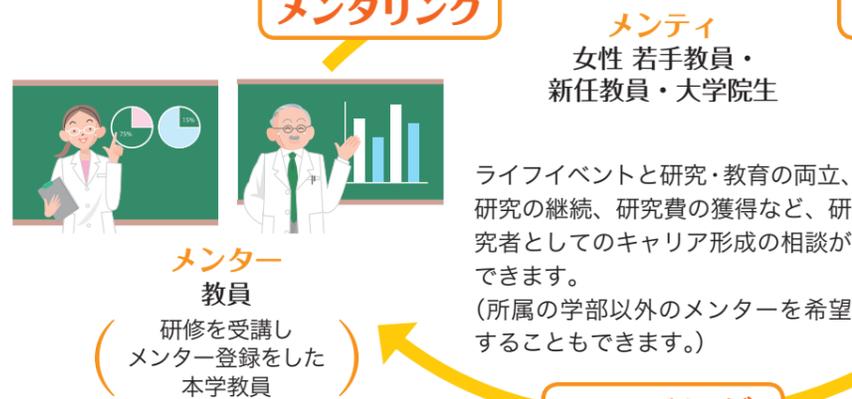
会を発足するきっかけのひとつに、「研究活動中は生活行動の範囲が狭くなるため、女性ならではの悩みなどをひとりで抱えたり、身体的な不調を我慢して研究活動を行っていたり等、孤独になりがちな研究生活を送る学生が多い」という実態があります。そんな中、信大の女性研究者支援室の開設を知り、同じ立場の女子大学院生との「仲間づくり」を意識したことが、会の発足につながりました。

活動内容は、主に月1回の定例会、サイエンスセミナー、研究発表などを予定しています。年度内には、会の立ち上げのイベントを予定しています。今後、会の名称をつけ、各学部に会員を持つことを目指しています。」

女性研究者支援室 相談窓口

メンター制度を導入します!

女性研究者支援室“SuFRE”では、コーディネーターがすでに相談に応じていますが、先輩教員に気軽に相談することができるメンタリングを始めます。



ライフイベントと研究・教育の両立、研究の継続、研究費の獲得など、研究者としてのキャリア形成の相談ができます。
(所属の学部以外のメンターを希望することもできます。)

受付窓口

▶電話またはメールで受付ます。

女性研究者支援室 SuFRE
長野分室(教育学部内)
TEL: 026-238-4048
E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp

内閣府・長野県 主催

「男女共同参画フォーラムin長野」でパネル展示!



長野駅に隣接するホテルメトロポリタン長野で10月19日(金)、「男女共同参画フォーラムin長野」が開催され、総勢420名が集まりました。

特設コーナーでは、本学の男女共同参画推進・女性研究者支援事業について4枚のパネルの展示とパンフレットの

配布を行い、多くの参加者に信州大学の男女共同参画事業を知ってもらうことができました。

フォーラムでは、阿部県知事の挨拶、内閣府の佐村知子男女共同参画局長の「男女共同参画政策の現状と今後の課題について」の報告に続き、堂本明子前千葉県知事より、「東日本大震災に学ぶ～災害・復興・防災に男女共同参画の視点を～」と題し基調講演が行われました。

また、男女共同参画の視点に立った「災害に強い地域づくり」をテーマに、パネルディスカッションも行われ、防災・震災においても女性の視点を取り入れること、女性の参画等を促進することが重要だと訴えました。



附属学校研修教員

女性研究者支援室長による男女共同参画に関する研修

長野県教育委員会から教育学部附属学校に派遣されている12名の研修教員の研修が10月10日にあり、松岡英子女性研究者支援室長(附属松本中学校長)による男女共同参画に関する講義が行われました。本学の状況とともに、学校現場での男女共同参画の重要性を考えることができたようです。



メンタリングの効果

▶メンティ

- ・研究活動とライフイベントの両立が可能となり、継続的な就業ができる
- ・職務上必要な知識や技術を得ることができる
- ・学部を超えたネットワークを持つことができる

▶メンター

- ・自身のキャリアや成長を振り返ることができる
- ・若手研究者から、新しいアイデアや活力を得ることができる
- ・自身が得た技術や教育を、次世代に継承することができる
- ・本学の研究者育成に貢献することができる

詳しくは、メンタリングガイドブック(11月発行予定)をご覧ください。

※メンティ対象者は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、女性研究者(女性教員・女子大学院生)を主な対象として実施いたします。

第3回 信州大学 男女共同参画シンポジウムのご案内

平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業（女性研究者研究活動支援事業）



第3回 信州大学 男女共同参画シンポジウム

信州大学の男女共同参画を どう進めるか！

～先行事例から学ぶ～

日時 平成24年11月12日(月)
13:30～16:30

会場 松本キャンパス 旭会館3階
SUNS 大会議室
各キャンパス SUNS 配信

対象 信州大学教職員、大学院生、学部生

プログラム

- 13:30 挨拶 信州大学長 山沢 清人
- 13:35 女性研究者研究活動支援事業終了大学による事例報告
 ■国立大学法人 東京工業大学 理事・副学長 男女共同参画推進センター長 岡田 清氏
 ■国立大学法人 静岡大学 副学長 男女共同参画推進室長 船橋 恵子氏
- 15:05 パネルディスカッション
 テーマ 「信州大学の男女共同参画をどう進めるか！」
 コーディネーター 信州大学女性研究者支援室長 松岡 英子
 パネリスト 本学教員・職員・大学院生
- 16:25 閉会の辞
 信州大学理事（経営企画・総務・人事労務担当） 濃邊 裕

※プログラムの内容は変更になる可能性があります。

お問い合わせ

信州大学女性研究者支援室
 TEL/FAX 026-238-4048 内線 831-4048
 E-mail sufre@shinshu-u.ac.jp 信州大学 男女共同参画 検索

主催：信州大学／信州大学男女共同参画推進委員会／信州大学女性研究者支援室

他大学の取組事例を参考に、本学の男女共同参画をどのように進めるかを考えます。

事例報告

▼国立大学法人東京工業大学

理事・副学長

男女共同参画推進センター長

岡田 清氏

演題

「理工系女性研究者

プロモーションプログラムを振り返って」

▼国立大学法人静岡大学

副学長

男女共同参画推進室長

船橋 恵子氏

演題

「女性研究者支援から男女共同参画へ」

～持続可能な地方大学モデル～

パネルディスカッション

■テーマ

「信州大学の男女共同参画をどう進めるか！」

■コーディネーター

信州大学女性研究者支援室長 ……松岡 英子

■パネリスト

経済学部経済システム法学科准教授 ……富永 晃一

理学部地質科学科准教授 ……石田 桂

総務部長 ……萩原 均

山岳科学総合研究所特別研究員 ……江田 慧子

■アドバイザー 事例報告講師2名

開催レポート(報告)

全学教育機構(SGE)国際交流セミナー

テーマ 世界の働く女性

～ジェンダーをめぐるキューバvs韓国の比較検討～

10月5日(金)17:30～19:00松本キャンパスにおいて、「世界の働く女性」をテーマに、全学教育機構主催のセミナーが開催されました。パネリストの山岡加奈子日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員は、「キューバにおける女性と革命」と題し、女性の労働力化を政府が奨励していること、教



育・医療の無償化など、女性にかかわる社会政策の充実や課題を話されました。2人目のパネリストの金早雪経済学部教授からは、「戦後アジアの開発と女性」と題し、M字カーブや、女性発展基本法等を紹介しながら、韓国の家族制度と福祉改革等について話がありました。ディスカッションでは、「女性の働き方は変わったか」をテーマに、参加の留学生から、各国の女性の就業と社会的地位の現状が出されました。

お問い合わせ

信州大学 女性研究者支援室 (SuFRe)

松本分室（総務部人事課内）
〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL 0263-37-2167
FAX 0263-37-3314
内線 811-2127

長野分室（教育学部内）
〒380-8544
長野市西長野6-口
TEL/FAX 026-238-4048
内線 831-4048

E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp
HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/sufre/>

開室時間
9:00～17:00(月～金)



長野分室(教育学部内)案内図

